

令和7年産 果樹情報（第5号）

令和7年8月12日
宮城県大河原農業改良普及センター

高温・乾燥等に注意して管理を行いましょう。

- ・地色の抜けや果肉の軟化等、果実の成熟状況に注意し、適期収穫に努めましょう。
- ・ハダニ類、カメムシ類等の発生に注意しましょう。

1 気象経過

7月の平均気温は25.6℃で平年より3.3℃高く推移しました。また、7月の降水量の合計は75mmで平年より105mm少なく推移しました。

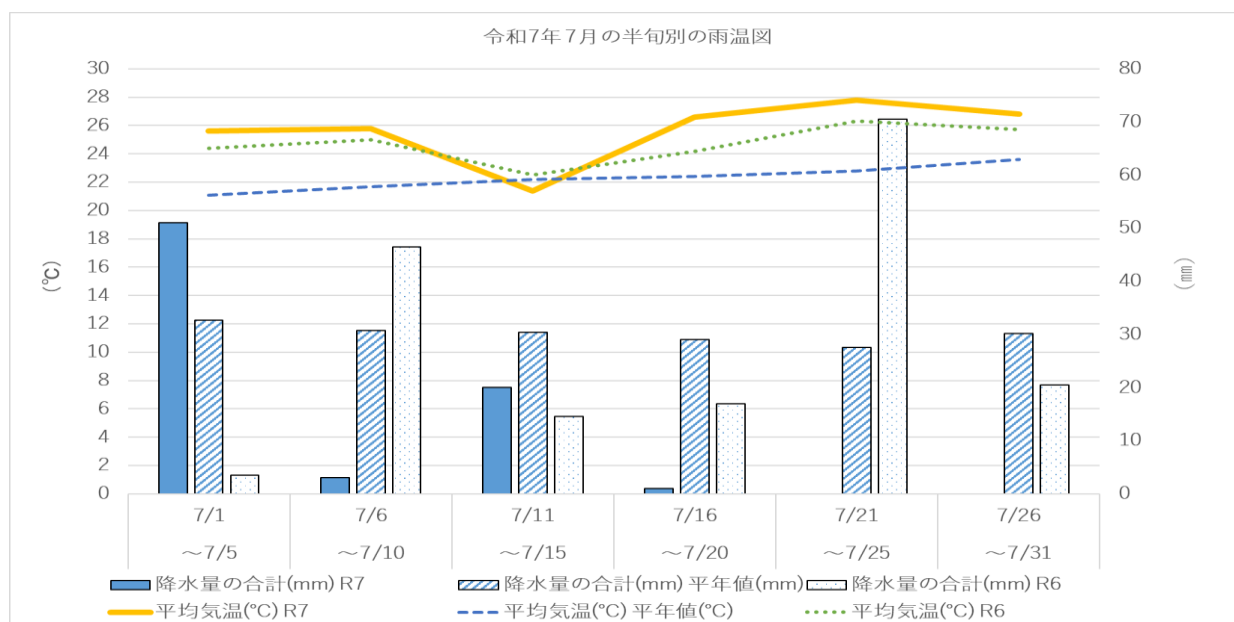


図1 アメダス蔵王地点の半旬別合計降水量及び気温の経過
(棒グラフ：平均降水量、折れ線グラフ：平均気温)

2 果樹作況調査ほの果実肥大状況

表1 りんご・なし(8/8調査)の果実肥大状況(単位:mm)

樹 種	品 種	調査地点	令和7年		令和6年		平年比(%)	
			タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	タテ	ヨコ
りんご	ふ じ	白石・郡山	60.8	67.5	62.8	70.1	98	100
な し	幸 水	角田・豊室	65.5	82.1	72.4	89.4	104	109
		蔵王・高木	59.0	74.7	65.3	79.6	99	104
	豊 水	角田・豊室	66.7	77.9	71.8	83.2	108	110
		蔵王・高木	60.0	68.5	64.9	72.8	104	105

3 宮城県内の果樹における病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所発行の「発生予報第7号（概要版）」によれば県内の病害虫の発生状況は以下のとおりです。（令和7年8月1日発行）

表2 県内の病害虫の発生状況

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
りんご	褐斑病	発生量：多	ハダニ類	発生量：平年並
	斑点落葉病	発生量：やや多	キンモンホソガ	発生量：平年並
なし	黒星病	発生量：平年並	ハダニ類	発生量：平年並
果樹共通	果樹カメムシ類	発生量：多		

4 果樹カメムシ類

宮城県病害虫防除所発行の「防除情報第5号」によれば、りんごでは、発生地点率及び被害果率が過去10か年で最も高くなりました。また、なしでは、発生地点率はやや高く被害果率は平年並となりました。薬剤散布を実施する場合は、ジアミド剤以外で果樹カメムシ類やチョウ目害虫に効果のある殺虫剤を使うようにしてください。また、薬剤散布は、果樹カメムシ類の活動が鈍い早朝に行うと効果的です。

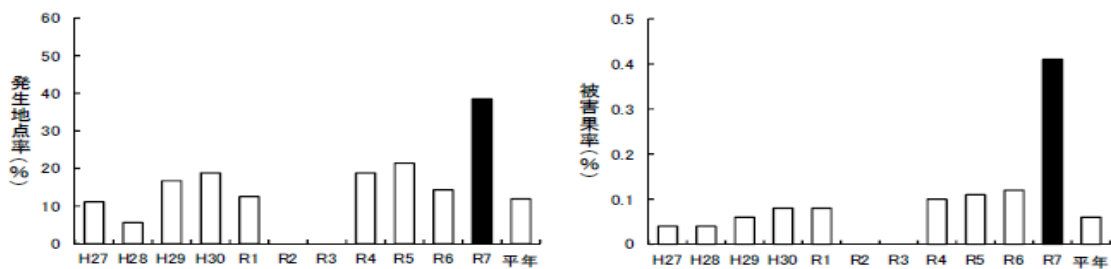


図1 果樹カメムシ類による被害果の発生地点率及び被害果率(りんご)
(病害虫防除所 7月下旬調査(平年:10か年平均))

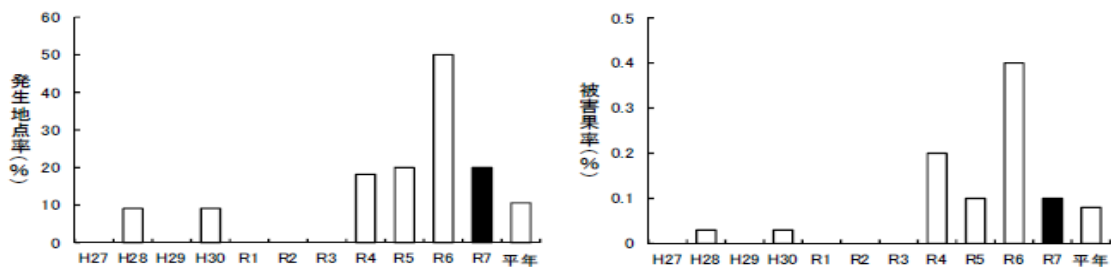


図2 果樹カメムシ類による被害果の発生地点率及び被害果率(なし)
(病害虫防除所 7月下旬調査(平年:10か年平均))

(上段：りんご 下段：日本なし 左図：発生地点 右図：被害果率)

5 樹種ごとの管理

■りんご

管理作業のポイント

- ・ 果実に直射日光が長く当たると、日焼け果が発生しやすくなるので、夏季せん定や葉摘みを実施する際は、果実が果そう葉で隠れるようにするなど果実温度を上げないように注意しましょう。
- ・ 樹冠内部の受光体制の改善や防除効果の向上のため、支柱立て等を実施しましょう。
- ・ 収穫前落果の多い品種には、落果防止剤を散布しましょう。

病虫害防除のポイント

- ・ ハダニ類は、高温・乾燥が続くと発生量が急増するので、園地内での発生状況に注意しましょう。
- ・ モモシンクイガは、6月初旬頃～9月上旬頃まで発生します。成虫発生時期に注意して薬剤散布を実施してください。

■日本なし

管理作業のポイント

- ・ 幸水は果皮色の進み具合に比べ、果肉熟度の進展が早いので、過熟果とならないよう適期収穫に努めましょう。福島県の「幸水」の収穫盛期は8月23日ごろで平年より6日早い見込みです。（「福島県 果樹情報第9号」7月22日発行）
- ・ 豊水は適熟期の収穫に努め、同一樹でも主幹から2m以内の果実は熟期が遅れるので、数回に分けて収穫します。ただし、収穫遅れのないように注意しましょう。
- ・ 果実温度が高いと日持ち性が低下するので、収穫は果実温度が低い朝のうちにを行い、収穫後は直射日光の当たらないなるべく涼しい場所に速やかに移動させて保管しましょう。

病虫害防除のポイント

- ・ ハダニ類は、高温・乾燥が続くと発生量が急増するので、園地内での発生状況に注意しましょう。
- ・ ナシヒメシンクイは9月末まで発生します。成虫発生時期に注意して薬剤散布を実施してください。

6 高温にかかる技術対策

- ・ 草生園では、草生の刈り取り回数を増やし（草丈15～20cmを目安）、樹と草との水分競合と蒸散を防ぐようにし、刈り取った草は樹冠下に敷草してください。
- ・ 不要な徒長枝は切除しますが、主枝や亜主枝の背面から発生した細めの枝などは適宜残して直射日光が当たらないようにし、各種資材による遮光や白塗剤の塗布など日焼け防止措置を講じましょう。
- ・ 7日程度、無降雨状態が続いた場合、20mm（20 t /10a）程度を目安にかん水してください。かん水設備がない場合でもスピードスプレーや等で水を運搬してかん水するようにしましょう。
- ・ 果実の着色不良で過熟とならないよう果実の品質（糖度や硬度）や食味等を考慮して適期収穫に努めましょう。